

SE の

便利中長

## Windowsで使えるPINGオプション

---

### ■書式

ping [オプション] host(IP)

-t  
連続してpingを実行し続ける。CTRL+Cを押すまで止まらない。

-a  
ホストをIPアドレスに変換して表示する。

-n xxx  
xxx回数だけpingを実行する。

-l xxx  
送信するパケットサイズをxxxバイトにする。(0から65500)

-f  
フラグメントを禁止する。

-i xxx  
TTL (経由可能なルータの最大数) をxxx (1から255) に指定する。

-v xxx  
パケット優先度 (TOS) をxxxに指定 (0から255)、指定なしの場合には0が適用される。

-r xxx  
記録する経路情報の数をxxxに指定する。  
(経路情報はIPヘッダーのRecord Routeフィールドに記録し、結果として画面に表示する。)

-s count  
echo応答メッセージの受信時刻を記録するホップの数をxxxに指定する。(1から4)  
受信時刻情報はIPヘッダーのInternet Timestampフィールドに記録し結果として画面に表示する。

-j host-list  
経由するホストを指定する。スペース区切りで最大9つまで指定したホストリストをIPヘッダー内のLoose Source Routeオプションとして指定する。  
(リストとして指定したホストの間に別のネットワークが存在してもOK)

-k host-list Strict source route along host-list.  
経由するホストを指定する。スペース区切りで最大9つまで指定したホストリストをIPヘッダー内のStrict Source Routeオプションとして指定する。  
(リスト指定したホストが順番どおりに直接接続している必要があり途中で直接接続していない部分があるとエラーになる。)

-w xxx  
タイムアウト時間をxxxに指定する。(単位はミリ秒)  
(デフォルトは4000ミリ秒(4秒))

## LINUXで使えるPINGオプション

---

### ■書式

ping [オプション] host(IP)

-V

受信したReplyパケットの詳細内容を表示する

-n

ホストをIPアドレスに変換して表示する。

-R

パケットと送信経路を記録する。(traceroute的なもの)

-c xxx

xxx回数だけpingを実行する。

-i xxx

ping送信間隔をxxx秒にする。(デフォルトは1秒)

1秒未満の場合にはSuperUser権限がある場合のみが実行できる。

-q

簡易表示(統計情報のみを表示する。)

-s xxx

送信するパケットサイズをxxxバイトにする。

## FreeBSDで使えるPINGオプション

---

### ■書式

ping [オプション] host(IP)

-V

受信したReplyパケットの詳細内容を表示する

-n

ホストをIPアドレスに変換して表示する。

-R

パケットと送信経路を記録する。(traceroute的なもの)

-c xxx

xxx回数だけpingを実行する。

-i xxx

ping送信間隔をxxx秒にする。(デフォルトは1秒)

1秒未満の場合にはSuperUser権限がある場合のみが実行できる。

-q

簡易表示(統計情報のみを表示する。)

-s xxx

送信するパケットサイズをxxxバイトにする。

-t xxx

タイムアウト時間をxxxmsecに指定する。

## Solarisで使えるPINGオプション

---

### ■書式

ping host(IP) [タイムアウト値]

ping -s [オプション] host [パケットサイズ] [実行回数]

-V

受信したReplyパケットの詳細内容を表示する

-n

ホストをIPアドレスに変換して表示する。

-R

パケットと送信経路を記録する。(traceroute的なもの)

-c xxx

xxx回数だけpingを実行する。

-i xxx

ping送信間隔をxxx秒にする。(デフォルトは1秒)

1秒未満の場合にはSuperUser権限がある場合のみが実行できる。

-q

簡易表示(統計情報のみを表示する。)

-s

pingを送信し続ける。Ctrl + Cをするまで停止しない。

-l xxx

送信間隔をxxx秒にする。